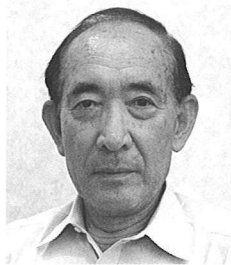


樹を育てるより 人を育てよう



会員 (元会長)
岩崎 明弘

福岡北RC発足時の平野桂樹特別代表のお言葉です。「人を育てる」ということを、強く印象づけるためとはいえ、「樹を育てるより」という否定的な言葉に釈然としない感じがありました。

偶々、当クラブの10周年記念誌を見ていたところ、そこに、先輩会員がこの言葉の真意と由来について寄稿がなかったので、参考までに披露させていただきます。

『当クラブの創立記念事業として何を?といろいろ検討され、記念植樹も有力な案の一つでした。当時、「油山市民の森」も整備途上にあり、「天神緑地」も大きな話題となっており、地球環境もとりざたされ始めた頃でした。若木を植樹し、この若木が根をはり、枝をのばし、葉を繁らすことは素晴らしいことで、時宜を得た事業だと考えられた。

しかし、「何十本、何百本もの木を育てることは、本当に立派なことであろう。だが、多くの子供達が健やかに育つことは、もっと、もっと大きな社会の財産になるのではなかろうか。」「子供達が健やかに育ち、社会のため、人のために役立つ成人になれば、これに優る成果はない。地球に優しい一人の人間が育つことは、何万本の植樹にも優る。地球への優しさになる。」樹を育てるより、人を育てよう』

平野特別代表のこの熱い思いが、日本ボーイスカウト福岡14団体の発足と育成につながったのです。

当クラブには、ガバナー時に、当地区に初めて、RYLAを創設された新家忠男PGもおられました。

本クラブの底流には、「人を育てる」ことへの情熱と努力が脈々と流れ、伝統となって受け継がれていきます。

ただ、そうはいつでも、当クラブは、平成21年度から、危機的状況にある西公園の桜の現状調査と活性化、及び再生活動に取組み、樹を育てる運動も実施しています。

この樹を育てる運動は、福岡教育大附属小学校の児童と共に一緒になって、植樹の方法を学び、植樹を行ってきました。

当クラブでは、樹を育てながらも、常に人を育てるということに本領を置いており、これからも、そうあり続けたいと念じています。

そのためには、先ず自分自身が育たなければならぬと思い、ロータリーライフを送っている今日この頃です。

例会場移転の件



会員 (元会長)

白石 正彦

福岡北ロータリークラブの第27代目の会長として、平成21年7月から事業を引き継ぐことになりました。幹事の井樋浩雄氏、SAAの井上賢司氏に支えられながら、アップアップの一年間でした。

しかしながら、会長を経験させて頂いたことはこれからのロータリーライフにとって、測り知れない大きなものを、私の心に残してくれたと確信しています。中野会員にガバナー補佐をお願いしていることから、1月のIMが当面の事業として差し迫った課題です。何にも分からない中、会場予約、実行委員長を大浦会員に引き受けて頂いたことで取りあえず動き始めました。

井樋幹事とは事業計画について何度も打ち合わせました。『富士山に登ろう』、『例会場を変更しよう』『ボーイスカウトとの関係確認』『若楠基金の検討』などでした。

『富士山に登ること』については、会員間になかなか機運が盛り上がらなくて、結局、井樋幹事が一人で登ってくれました。

『ボーイスカウトとの関係』についてはとても熱心に先方の団長さんとの打ち合わせなどやっていたが、総会やウオーキングなどの事業、あるいは忘年会にも参加したりしました。

『若楠基金』は当初、基金をつくり、その運用益で奨学金を出そうということを先輩の会員が考えてこ

られ、資金が集まっていたのですが、現在の低金利時代において、運用益を得ることの困難さは明白であり、もはや当初の目的に沿った基金の利用は不可能と考え、運営委員会で検討した結果、福岡市の教育委員会の意見も参考にして、『野間中学校に3年間、図書を贈る』という社会奉仕事業になりました。

また社会奉仕委員会では、小野昭生委員長のもと森陽一会員や福岡県の造園業協会の協力を得て、福岡教育大学附属小学校の生徒さんたちと一緒に、『西公園の桜再生事業』を3年間継続するということで立ち上げました。

『例会場変更』については、井樋幹事が最初から非常な情熱を持って取り組まれました。嫌だったのは食事の不味さでした。

変更後の予算のことから、以前の会場と同程度の予算でやるというTホテルと現在の例会場のホテルニューオータニとのいずれにするか、会員間で何度も話し合い、最後はアンケートで決めました。

私は経費が安くて運営できるTホテルの方が良いのではないかと思っていたのですが、会員の思いは40対20で現在の会場を支持する意見が圧倒的でした。

私も現在では、ホテルニューオータニが例会場になって本当に良かったと思っています。

退会の弁



会員 (元会長)
植田 正男

このたび、40年余のロータリー生活に終止符を打つこととしました。福岡北ロータリークラブの会員の皆様には、長きにわたり、公私ともにご厚情を賜りました。私の後半生に豊かな彩りを与えていただいたこと、厚くお礼申し上げます。残夢整理として、私のロータリーライフを記したいと思います。

- | | |
|-------|--|
| 1994年 | 福岡北RC入会 |
| 1996年 | 高雄中興RCを姉妹クラブ調印のため訪問 |
| 1998年 | 15周年 週報特集号を担当 |
| 2003年 | 20周年 記念誌を担当 |
| 2008年 | 25周年 光安会長の下で幹事を務める |
| 2011年 | 2011-2012年度 会長を務める |
| 2013年 | 30周年 大浦会長・小副川実行委員長の下、盛大に行われる |
| 2018年 | 35周年 A会長の先導で富士山に登る。山頂にて記念例会、ソング委員長として「それでこそロータリー」のタクトを振る |
| 2023年 | 40周年 会員数80名に。
姉妹クラブ委員長として博多-高雄豪華客船の旅を企画、会員夫婦50組が参加 |
| 2028年 | 45周年 孫がボーイスカウト福岡第14団に入団、
新世代委員長として一緒に30キロハイクを歩く |
| 2029年 | 葉山元会長の白寿の会 司会を務める |
| 2033年 | 50周年 会員数100名を超える。出席委員長としてヨーロッパ2週間周遊メイクアップの旅を企画、会員50名が参加する。 |